

2022 年 9 月 22 日

満員御礼

台風一過で一気に秋冷の候となりました。

こうした中、コロナ禍を吹き飛ばすべく第 34 回聖祭を賑やかに開催いたしました。感染症拡大予防のため一部制限を設けての開催でしたが、2 日間で 1800 名を超える皆様にお越しいただきました。お忙しい中、ご来校いただきました方々に生徒共々厚く御礼申し上げます。在校生の保護者・ご家族はもちろんのこと、特に 150 名を超える受験生の皆様をお迎えできたことに、生徒たちも嬉しく心強く感じていました。加えて、1 期生以降 32 期生までの同窓生の方にはしばらくご来校をお断りしていただだけに、本当に懐かしくもあり、大いに励みになりました。

生徒たちにとっては実施にいたるまで様々な苦労があたっと思えますが、開会式で呼びかけた通り「大いに楽もう！皆が楽しければ見ている人も楽しい！」文化祭になったと自負しています。そして、中国語の『熱情 rèqíng』という言葉と同様、「心のこもった相手を気遣う気持ち」で来校された皆様を受け入れようと伝えましたが、果たして皆様はいかが感じられたでしょうか。

3 年ぶりの文化祭公開が実現した反面、多くの生徒にとっては初めてのことで戸惑いや悩みがありました。しかし、そこは皆で意見を出し合って工夫することで乗り切ることができました。今回は SDGs や世界情勢などにも配慮しながら、皆の想いをスローガンの「天馬行空」に込めて、これまでにない新しい取り組みや企画に挑戦することができました。また、本校では、有志生徒が FM 放送の「FM たちかわ」をお願いして学期ごとに本校の PR 放送を行っていますが、今回は局の定時番組に特別参加させていただき、文化祭の PR も行いました。

文化祭は、何と言ってもクラスの団結力、協働力、実行力、企画力など総力を結集して創り上げるものですが、今年のグランプリには、中学はオリジナル台本で完成度の高い演技をした 3 年 1 組の劇『残り時間はあと 3 秒』が、高校は本校初の企画で悪天候にもめげ

ず元気よく参加者や見ている人を楽しませた 1 年 B 組のアトラクション『splash sliding』が選ばれました。もちろん、それぞれの団体が力を出し切ったことに違いはありませんが、中学 1 年生の学年の統一テーマとして「パラスポーツの紹介」を取り上げた展示、アリーナではクラスごとに時間帯を決めて皆様に「ボッチャ」を楽しんでいただいた参加型の企画は秀逸でした。

また、有志団体や部活動で一番評判の高かったのは、高校 2 年生有志による「つよくたたくな」です。これは、クラウドファンディングの資金を元にゲームメーカー「セガ」の方の援助も得ながら、有志でコンピュータゲームを開発した企画で、熱心なゲーマーで会場は終日熱気に充ちていました。当日はテレビ取材があり、この様子は近々 MX テレビで放映されるとのことです。また、7 月に日本テレビの朝の番組でも取り上げられた交通機関研究部の鉄道模型の展示も、多くの参加者であふれていました。なお、交通機関研究部は 10 月発行の「子供の科学」(誠文堂新光社)にも取材記事が掲載される予定です。その他、例年強い支持と人気のあるダンスドリル部や吹奏楽部、それに今年 7 年ぶりに全国大会への出場を果たした漫画・イラスト研究部はたくさんの観客を引き寄せていました。

こうした生徒企画のほか、各教科でも日頃の授業や夏の課題発表を行いました。恒例となっている国語科主催の「聖っ子 青春短歌」では、生徒たちが素直に詠んだ日常が表現されており、聖ヶ丘の現状を感じ取ることができました。年々進化する夏の特別講座『A 知探 Q の夏』については、開催した全 15 講座についてポスター展示を行う他、今年は担当者の努力で 5 分程度の口頭発表を行い、多くの方々に聞いていただくことができました。

その他、今年は数々の新しい試みも行われました。沖縄の守礼の門を思わせるような深紅の門、校内に入るまでのスロープを飾るクラス横断幕などです。生徒にとっては、2 日間の限定ながらクラスで考案・デザインした T シャツ姿で過ごし、スマートフォンは時間制限なく全面許可(画像・映像の外部配信は不可)、ポケットサイズのパンフレットも復活しました。

しかし、何と言っても今年一番の注目は、教育後援会のご尽力に

よるキッチンカーの導入でしょう。コロナ禍の文化祭で多くの学校で飲食の提供が大きく制限される中、安全性と食材と味にこだわるプロの皆さんの力をお借りしてアリーナ前に色とりどりの 7 台のキッチンカーが並びました。地産地消にこだわった食材をはじめ、世界の目新しいメニューで、お昼時には 20 分待ちの長い行列ができるほどでした。

いずれにしても今年の文化祭が成功裏に幕を閉じることができたのは、生徒とそれを支えてくださった保護者の皆様はじめ、多くの皆様のお陰です。ここに、改めて感謝を申し上げます。これに続く 35 期生以降の皆さん、「さらなる高みをめざす」完成度の高い来年の文化祭に期待しています。



校長 石飛 一吉